

実践記録

学校/学年	小学校 / 4年	
教科等：単元名	学級活動：「大人といっしょに使おう」	
キーワード	「安全なネットの使い方」	
情報モラル指導 モデルカリキュラム表における 目標	分類	情報社会の倫理 法の理解と遵守 安全への知恵 情報セキュリティ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	d 1 ~ 3 情報社会の危険から身を守ると共に、不適切な情報に対処できる。
	中目標項目番号 中目標項目内容	d 1 - 1 大人と一緒に使い、危険に近づかない。
授業会場	パソコン教室 普通教室 特別教室〔 〕 その他〔 〕	
学習の目標	インターネットで万一、変なページが表示されたときの対処法と大人と一緒に使うと安全であることがわかる	
使用教材	教材名	事例で学ぶNetモラル
	製作者	広島県教科用図書販売株式会社
	入手先(URL等)	長野市情報モラルポータルサイト「事例で学ぶNetモラル」

展開案

	学習活動	指導 評価
導入	1. インターネットにはどんなページがあるか考える。 2. 映像クリップを見て、わたるが、「ひみつのへや」のリンクをクリックしたら、どのようなページになったかを考える。	・自分たちが今までに見たページや写真を思い出させ学習カードに書かせ発表させる。 ・映像クリップを視聴後、キーシーンを提示し、話の流れを振り返り、どんなページを見たかを発表させる。
展開	3. おかしなページが出たら、どうすればよいか話し合う。	・おかしなページが出たら、どうするかペアで相談し学習カードに考えを書かせ、発表させる。 ・親に話すか話さないか、どちらが正しい行動か話し合う。 万一、変なページが表示されたときの対処法がわかったか。
おわり	4. インターネットを使う時はどのようにするかまとめる。	・まとめの映像を見せ、インターネットを使う時にどうするかを数人に発表させた後、学習カードにまとめさせる。 インターネットには不正なページがあり大人と一緒に使うと安全であることが理解できたか。

授業の成果

- ・インターネットを使う時の対処法が全員で共有できた。×マークで画面を消す。 で、前の画面に戻る。それでも、戻らなかったら、電源を切る。コンセントを抜く。
- ・わたるが、こっそりインターネットをしていたこともあり、親に知らせるかどうかで考えが分かれた。「怒られるのがいやだから話さない」と言う意見に対して、「自分が悪いのだから正直に話す」「お金がかかってしまうこともあるから、いつかはばれる。」「ごまかしていても、さらに叱られることになるからあやまる」といった意見が出てきて、親と一緒に使うことの大切さを実感することにつながった。
- ・全く何のルールもなくPCを使っていた家庭が7軒もあった。してはいけないことに気をつけて使うように意識づけをしていきたい。

指導のポイント・留意点

- ・インターネットをあまり経験していない子が、5人いたので、インターネットにどんなページがあるか発表する場面を設ける。
- ・わたるが、こっそりインターネットをして悪質なサイトに入ってしまったことに注目させ、親に知らせるかどうかで話し合いの場面を設け、親に叱られても相談することの大切さに気づかせる。